

バチカンにおけるサタン崇拝

【訳者注】この論文は3年以上前のものだが、現在、新しい法王（フランシス）が誕生して、ここに書かれているようなことは、もっと徹底的に暴かれ、さらに恐ろしい様相を見せている。イルミナティとバチカンが、ルシファー崇拝において完全につながっていたことがわかる。究極の悪というべきは、小児性愛者に狙われた子供たちが、ほとんど行方不明になることである。アメリカでもイギリスでも、子供の誘拐件数が異常に増えているらしく、FBI 元局長の、それについての講演ビデオがある。このようなショッキングな問題についてユー・チューブはいくらでもあるが、全部が本当ではないにしても、かなりの部分が真実だと判断せざるをえない。末尾に2つの例を引用しておいた。

この先、どんなに恐ろしく、思いがけない世界の実態が見えてくるかわからない。このバチカンの暴露はその最たるもので、デイヴィッド・ウィルコックの比喩がぴったりであろう——「それはちょうど、あなたが部屋へ入っていき、あなたの愛する人が別の人物とベッドにいるのを発見するのに近いであろう。」

Vati Leaks, December 20, 2011

1996年11月、ヨハネ・パウロ2世（2005没）の在位時代に、彼はこれを認めていたと思われるが、カトリック教会の位階メンバーが密かにサタン崇拝儀式を行っているという指摘が、エマヌエル・ミリング大司教（1930生）によってなされ、この驚愕すべき事実が、バチカンの著名なインサイダーであるマラカイ・マーチン博士（1920-1999）によって確認された。後に、バチカン宮殿におけるサタン崇拝活動に関する指摘が、新たに何回かにわたって浮上し、メディアはこれを“爆発的”と呼び、当時の新聞見出しには「**サタン崇拝がバチカン内部でおこなわれている！**」と書かれた。その記事の一部を引用すると——

最近数週間、大火の旋風がイタリアで吹き荒れている。この論争はエマヌエル・ミリング大司教の主張をめぐるもので、彼は、バチカン内部でサタン崇拝活動が行われていると正式に申し立てた。この主張についてイタリアの記者団から質問されると、彼はそれに間違いないと述べた。（“Satanism is Practiced in Vatican”; Sunday, February 28, 1999）<http://www.fatima.org/satanism.html>

そうすることで、ミリング大司教は、サタン儀式がバチカン市の神聖な壁の中で定期的に行われていると主張する、もう一人のバチカン・インサイダーになった。当大司教が、第3回

「ファティマの聖母 2000 年世界平和国際会議、11 月 18-23」で電撃的なスピーチを行った後、ミリング大司教は教会制度の“極右的”批判者だという見方が、バチカンの位階全体の中で起こった。

大司教がバチカン位階全体をサタン崇拝の罪で告発

ミリング大司教は、「聖座」(Holy See)にある高位の人々を「サタンに帰依する人々」あるいは悪に加勢する人々として、公然と告発し、次のように言った――

カトリック教会の悪魔は今やしっかり保護されていて、まるで政府によって保護されている動物のようだ。動物保護区域に飼われていて、誰も、特にハンターはこれに近づいて捕えたり殺したりすることを禁止されている。教会内の悪魔は、今日、ある教会権威によって、教会の公的悪魔ハンター、すなわちエクソシストから現実的に保護されている。

「教皇庁の中心にもサタンの帰依者はいますか？」という質問に対して、ミリング大司教は、「その通りです。助祭 (priest) も司教 (bishop) もいます。私は大司教 (archbishop) なので、位階制教会組織のこのレベルで、やめておきます。これより上へは私は行けません」と答えた。（“ミリングが、カトリック教会の不正性行為やホモセクシュアルを告発”という見出しが散見する。）大司教の正直な告発の後で、会見に出席していたマラカイ・マーチン博士は、ミリングの非難のこの驚くべき性格について訊ねられ、こう答えた――

ミリング大司教は善良な司教で、ローマ（カトリック）にはサタン崇拝者がいるという彼の主張は完全に正しい。過去 35 年間のバチカンの実情を知っている者なら誰でも、「闇の帝王」が、ローマのサン・ピエトロ大聖堂内部に、昔も今も配下をもっていることを知っている。

2006 年、ミリング大司教と 4 人の司教が、関係のなさそうに見える問題で破門された。2007 年 10 月、彼のバチカンへのパスポートがキャンセルされ、同時に、バチカン市国による彼の外交的保護が取り上げられた。（*Catholic World New*, October 10, 2007; “Vatican pulls passport of excommunicated archbishop”）

バチカンにおけるサタン崇拝構造

バチカンで行われているサタン崇拝のミリング大司教による指摘が、多くのカトリック教徒にとって特に興味があったのは、彼の言っていることが、マラカイ・マーチン博士の著書

『吹きさらしの家：バチカン小説』(Malachi Martin, *Windswept House: A Vatican Novel*)に現れた暴露に、考え方が似ているからであった。マーチン博士は、バチカン聖職者の高位のメンバーが、自分の血でサインした誓約を結び、伝統的なミサの「聖なる犠牲」を嘲り模倣する、ブラック・ミサの儀式に参加していると説明している。(ブラック・ミサについての詳細は、Tony Bushby, *The Christ Scandal*, Standard House Publishing, 2008, pp. 91-93.)

バチカンにおけるサタンの小児性愛者集団

サタンの小児性愛行為がバチカンで行われているという証拠が、連続して出ている。そしてさまざまな作家が匂わせていることは、法王ヨハネ・パウロ 2 世が、バチカンにおける小児性愛者には寛容で、サタン儀式を支持しているように見えたのは、十分な理由があったということである。マーチン博士は、小児性愛がローマ教会では盛んなのは、それがサタン儀式の一部だからだと言っている――

その上、サタンの小児性愛者が、儀式と実行において、一部の司祭や助祭の間では、イタリアのトリノや、アメリカのサウスカロライナと同じくらい広く発生していることは、すでに文書に記録されている。サタンの小児性愛者のカルト的行為は、専門家たちによって、落ちた大天使の儀式の絶頂をなすものと考えられている。(Malachi Martin, *The Key of This Blood*, Simon and Schuster, New York, 1990, p. 632.)

マーチン博士によれば、「サタンの玉座即位式」は 1963 年、法王パウロ 6 世 (1897 生、在位 1963 年 6 月 21 日～1978 年 8 月 6 日) が位についた最初の週に、バチカンで行われたという。マーチン博士は、このサタンの儀式は、1963 年 6 月 29 日、バチカン市内部のサン・パウロ礼拝堂で行われたことを確認している。この儀式の結果は、バチカンが、サタンの「超権力」と呼ばれるものを公然と示したことを意味した。著書の中で、イエズス会僧であるマーチン博士は、こうコメントしている――

突然、この在位期間 [ヨハネ・パウロ 2 世の] 中に、ローマ・カトリック組織が、サタンを崇拝し愛する聖職者団、少年や相互の間で男色を行う司祭や助祭たち、ウィッカ (魔女の邪教) の“黒い儀式”を行い、レズビアンとして生きる尼僧たちの永遠の存在を、内在させることが確実になった。…毎日、日曜日も聖日も含めて、異端、冒瀆、狼藉、無関心の行為が、聖職者の天命を与えられた者たちによって、聖なる祭壇において犯され、許されるようになった。神聖を汚す行為や儀式が、キリストの祭壇において許されるだけでなく、一部の枢機卿、大司教、司教からの黙認、あるいは少なくとも暗黙の許可が与えられた。… (*Windswept House: A Vatican Novel*, p. 492.)

小児性愛がサタン崇拝の儀式の一部であることは間違いないが、歴史記録は、すべての小児性愛僧侶がサタン崇拝者ではないことを示している。子供への性暴力の報告された例のほぼ 70%は、子供とのセックスの強迫的な衝動をもつ、伝統的な小児性愛者によるもので、残りの 30%は、儀式としてそれが要求されるサタン崇拝者によるものである。

奇妙な法王の公言

法王パウロ 6 世 (1978 没) は、「サタンの煙が何かの割れ目から神の宮 [バチカンの意味] の中に入ってきた」と、暗鬱な表現で説明した。これがサタン信者による即位式のことを、それとなく指すものかどうかはわからなかった。そのとき彼が関わっていた、いくつかの他の事柄のことを言っているとも取れるからである。2000 年 11 月に、イタリアの新聞 *Il Messaggero* の見出しはこう叫んだ——「悪魔が法王を打ち負かす！」これは、法王ヨハネ・パウロ 2 世がサン・ピエトロ大聖堂で、十代の少女と対決したという内容の記事だった。この少女は、有名な映画「エクソシスト」の一場面を思い出させるような、深い、がらがらした、不自然な声で、彼に対する侮辱の言葉を叫んだのだった。ヨハネ・パウロ 2 世は少女に対して、悪魔祓いをかけるふりをしたが、効き目がなかった。

サタンを崇拝した法王

バチカンにおけるサタン崇拝は新しいものではなく、その存在は 1000 年以上も昔に遡ることができる。クレモナの Liutprand 司教 (c. 922-972) は、当時の指導的な僧の一人で、法王ヨハネ 12 世 (955-964) について詳しい話を記録している。ヨハネ 12 世は、ギャンブルをしていてサイコロを投げるときに、異教の男女の神々を呼び出すことによって、不名誉な経歴を残すことになった。この法王様は、飲めや歌えの騒ぎの最中にサタンに乾杯し、彼の悪名高い妾/売笑婦マルシアを、ラテラノ宮殿 (ローマ教皇の住居) の彼の売春宿の管理者にした。(Liutprand of Cremona, *Antapodosis*)

結論

サタン崇拝が現在、そして何世紀も昔から、バチカン宮殿の内部で、野放し状態で行われていたことは明らかなようだ。ミリング大司教とマラカイ・マーチン博士の勇氣ある尊敬すべき証言によって、この深く埋もれていた教会の秘密が表面化し、またこれら勇敢な著者たちは、カトリック教徒だけでなく、世界全体の注意を、「聖座」で行われていることの中の、悪なる力の働きに向けさせた。これらの著者のメッセージの本質は、サタン崇拝が、バチカンの中心から下は地方の教区まで、キリスト教の陰の中に潜んでいて、教会の起源について

の偽りの説明によって騙されてきた人々を、操っているということである。



この写真には、クー・クラックス・クラン風の衣装を着ているのが誰であるかについて、驚くべき手がかりが潜んでいる。その正体は、近々出版される Tony Bushby の *Pope John Paul II's Dark Secrets* で明かされる。

参考ビデオ：

Full Blown Lucifer Worship at the Catholic Vatican

<https://www.youtube.com/watch?v=sUN-XEU6HUc#t=354>

Catholic Church—Reptilian Jesus—Satanic Sculpture

<https://www.youtube.com/watch?v=n8FHjHfK58A>